

# 大阪狭山市で最も新しいため池 第一狭山池（副池）

中山 潔（大阪府立狭山池博物館学芸員）

## 副池が生まれたいきさつ

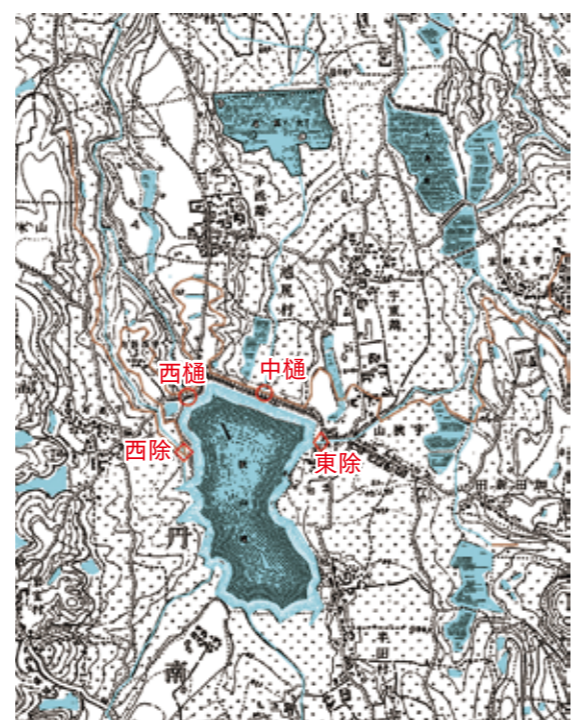
池之原一丁目にある第二狭山池（副池）は、大阪狭山市で最も新しく、大正から昭和初期の狭山池の改修によって築かれた農業用のため池である。大正二四年（一九二五）八月に農林省の用排水改良事業（補助金率1/2）として認可された狭山池用水改良事業で築かれた。当初の計画では、狭山池の水深を4尺一寸五分（一尺は三〇・三cm、一二・五・七五cm）高くして、貯水量七八〇〇余立方坪（一立方坪は五・九八m<sup>3</sup>、四六六〇〇m<sup>3</sup>）を増し、池底に土砂が堆積する原因である天野川・今熊川を狭山池から独立させ、大雨の時に西除にかかる負担を軽くしようとするものであった。

ところが、昭和二年（一九二六）に狭山池の堤の嵩上げ工事をや

めて、下流の太満池に水深五尺（五〇・五cm）の嵩上げと第二・第三狭山池を新設して貯水量一四万五千立方坪（八六七〇〇〇m<sup>3</sup>）を増し、灌漑範囲を九七六町歩（町歩は九九一七m<sup>2</sup>、約一ha）増して、二五〇五町歩とする計画変更を申請し、認可された。さらに昭和四年（一九二九）一月には第三狭山池の新設はボーリング調査の結果、不適切として中止され、狭山池の嵩上げ工事に戻されている。「大学は出たけれど」という流行語に代表される昭和五年（一九三〇）の昭和恐慌も影を落としているかもしれない。

## 副池の場所はどんなところ？

第二狭山池（副池）の場所は、狭山池の西樋と西除川を結ぶ水路沿いにあり、明治の地形図をみ



(図一)明治期の地形図 ※等高線は80m



昭和23年 航空写真(国土地理院保管/進駐軍撮影)



第二狭山池樋管『狭山池改修誌』



第二狭山池樋管水量堰『狭山池改修誌』

## 現在の副池

現在の副池は、昭和三年八月三十一日に着工され、五か月の工期で翌年一月三十一日に竣工した。樋管用の金物を西島製作所、その他の工事は大阪市東成区放出町の平田仁三郎が請け負った。第二・第三狭山池の計画は、狭山池に流入する水量が貯水量以上に豊富であるため、この池に五万立方坪貯えて狭山池の貯水量全体を増すためであった。中樋を大きな取水塔に作り替えて放水量が増えたので、狭山池からはかつての西樋「内法二尺二寸(六六・二cm)四方」ほどの送水の必要がなく、第二狭山池に送水するのが主目的となったため、直径一尺二寸五分(三七・六二五cm)の鋼管のみが満水位の一六尺(四・八一六m)下に設置された。副池は総面積は五町七反余(五・六五ha)、その内、三都村が二町九反(二・八七ha)余、狭山村二町七反(二・六七ha)余で新たに用地が買収された。さらに下流部に第三狭山池の計画もあったため、樋門は一か所とし、狭山池西樋からの流入がほとんどであるので、特別な除は設けず、樋管最下部に泥吐口を設けたのみであった。また、昭和五年五月に

るとかなり深い渓谷をなしていたことがわかる(図一参照)。池尻自由丘三丁目から副池の谷を隔てて西に池之原一丁目、さらに西除川の谷をへだてて西に池之原四丁目とほぼ同じ標高八〇mくらいでつながり、自然地形で南からの水の流入もない状態で現在のようない深い谷が形成されることは極めて不自然である。この二つの谷地は狭山池が築造されて、その余水吐(除)が設置されてから、度重なる洪水がくりくり上げた谷である可能性が極めて高い。

おそらく、奈良時代に狭山池の堤防が規模に嵩上げ(天平宝字の改修、七六二年)されて作られた西除が副池の谷を削り出した。八五〇年後の慶長の改修(一六〇八年)ではこの谷に除の設置は不可能と判断した片桐且元が西樋を新設するとともに、新たな西除(現在の西除の起源)を

さらに西側に掘削したものと推定される。戦国時代、永禄初年頃(元年は一五五八)に安見美作守(宗房)が改修しようとして失敗したと記録される樋は副池の谷を利用して設置しようとしたようだ。片桐の西樋設置、西除の新設は、この安見の改修計画を引き継いだものであった。安政七年(一八六〇)、副池の谷の部分から岩室村領分で一五間、池尻村領分で一九間の「古樋」が発見されて遠近から見物に人が集まったと『岩室村年代記』(中林家本)に記録されている。

は副池樋尻に量水堰が設置され、流量を測定できるようにした。このような経緯で設置された副池の水は、現在も西除に隣接する取水施設から狭山池の水が送られているが、下流の西除川への放流は狭山池の取水塔から流されたものが中心となっている。

かつては、狭山池の水は大阪狭山市の上水道水源の一部(一五%)として副池から取水されていた。

また、農業用水貯水池としての役割は低下し、狭山池のダム化にもなつて、狭山の副池自然づくりの会などの市民団体も協力して「ため池オアシス公園」として整備された。現在は、ピオトープの整備や工作教室、自然観察会など市民が自然に親しむ空間として利用されている。大阪狭山市で最も新しいため池、第二狭山池「副池」は市民の憩いの場、自然に触れる場、自然を学ぶ場として新たな使命を担っているようだ。



現在の副池の除



公園遊歩道



狭山池の第二取水施設

